

報 告

COVID-19 感染拡大により学内実習に変更した 基礎看護実習 1 に関する教育実践報告

飯澤良祐, 宇野智子, 中村 円, 首藤英里香, 堀口雅美, 大日向輝美

札幌医科大学保健医療学部看護学科

本報告は COVID-19 感染拡大により学内実習に変更した基礎看護実習 1 の教育実践を振り返り, 基礎看護学における看護実践能力の育成につなげるための学内実習の有効であった点と課題を明確にすることを目的とした。学内実習では看護の役割や連携に関する講義, 病院と病棟ならびに看護活動に関する動画の視聴, 看護師へのインタビューを実施した。学習内容の順序性を考慮し, 関連付けて学習できるようにした。学生は臨床の場での看護活動や対象者との関わりを知り, 対象者やチーム医療に必要な対人関係能力, 倫理観について学ぶことができたと考える。学内実習により対象者との援助関係の構築や学生指導看護師と関わりチームの一員として役割を果たすことは実際の体験を通して学ぶことはできず, この点は 2 年次以降の学習で補う必要がある。基礎看護学において看護実践能力の基盤を形成し, 看護に対する洞察を深めていけるよう教育活動を行う必要がある。

キーワード: 基礎看護実習 1, COVID-19, 学内実習, 看護実践能力, 実践報告

Educational on-campus practice report

in basic nursing practice I during the COVID-19 pandemic

Ryosuke IIZAWA, Tomoko UNO, Madoka NAKAMURA,

Erika SHUDO, Masami HORIGUCHI, Terumi OHINATA

Department of nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

This report reviews the educational practice of basic nursing practice I, which was changed to on-campus practice, during the COVID-19 pandemic. It clarifies the effective points and issues of on-campus practice to connect to developing nursing practice ability in basic nursing. On-campus practice consisted of lectures on the roles of nursing and collaboration; viewing videos on hospitals, wards, and nursing activities; and interviews with nurses. The order of the learning contents was considered so that students could learn while relating to them. We observe that students were thereby able to learn about nursing activities and relationships with patients in clinical settings, and learn about the interpersonal skills and ethics necessary for patients and team medicine. In on-campus practice, students were not able to learn, through actual experience, how to build supportive relationships with patients and the role of a member of a team in relation to student nurses. It is necessary to conduct educational activities in basic nursing so that students can develop the foundation of their nursing practice ability and deepen their insight into nursing.

Key words : Basic nursing practice I, COVID-19, On-campus practice, Nursing practice ability, Practice report

Sapporo J. Health Sci. 11:93-97(2022)

DOI: 10. 15114/sjhs. 11. 93

I. はじめに

臨地実習は看護の知識と技術を統合し、実践へ適用する能力を育成する学習である¹⁾。学生は実習で対象者との関係形成、チーム医療に必要な対人関係能力、倫理観、そして専門職として自己省察する能力が求められる²⁾。講義と演習の学びを臨地実習で活用すること等を通して看護実践能力は育まれる。

本学科1年生は基礎看護実習1で看護の実際に関し体験を通して学び、看護および看護職者に対する理解を深める。

2020年の新型コロナウイルス感染症(Coronavirus Disease 2019: COVID-19)の感染拡大に伴い、全国的に臨地実習を学内実習へ変更をせざるを得なかった。本学看護学科では、2021年1月下旬の基礎看護実習1は学内実習に変更した。

本報告では平常時の例として2019年度の基礎看護実習1の概要を述べた後、COVID-19感染拡大下の2020年度の学内実習に関する実践報告を行う。そして、基礎看護学における看護実践能力の育成につなげるための基礎看護実習1学内実習の有効であった点と課題を明確にすることを目的とする。

II. 2019年度およびCOVID-19感染拡大下の2020年度の基礎看護実習1の概要

1. 基礎看護実習1のカリキュラム上の位置づけ

本科目は教育課程表の臨地実習に位置づけられ、1年生の必修科目である。本科目では対象者の生活の場としての病院環境や看護の役割、療養環境にいる対象者の生活行動や健康に関する心情を考察する。その過程を通して「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について理解を深め、学生看護師としての倫理的な学習姿勢を学ぶことをねらいとした。

2. 2019年度の基礎看護実習1の概要

1) 到達目標

到達目標の内容は次の6点とした。すなわち、病院の構造と機能、病棟の構造と機能、病棟における看護の役割機能、療養環境にいる対象者の心情、体験した内容からの看護についての学び、および学生看護師としての行動に関することである。

2) 実習方法

実習方法は下記(1)～(3)で、実習後は学生に提出物の提出を課した。

(1) 看護の役割と連携に関する講義

看護の役割については、看護部長より看護の役割機能や看護部の組織体系、看護体制(Partnership Nursing System: PNS)に関する内容であった。連携については、医師や院内外との連携、リハビリテーションの役割、連携

における看護の役割と課題に関する内容で、それぞれ医師や作業療法士、看護師による講義とした。

(2) 病院見学

病院見学は制御部門、放射線部門、外来部門、リハビリテーション部門と病院内施設とし、学生は各部門に行き担当者から説明を受けた。

(3) 病棟実習

病棟実習で、病棟内施設と看護師の看護活動の見学、バイタルサインの測定や車椅子移送等の看護活動へ参加した。また、学生は対象者と健康に関する会話をを行った。

3. COVID-19感染拡大下の2020年度の基礎看護実習1

1) 到達目標

2019年度の到達目標に含まれる内容のうち「病棟における看護の役割機能」、「療養環境にいる対象者の心情」については学内実習に合わせ、目標の表現を「看護師の看護活動の見学と看護師へのインタビューを通して、看護師の活動の実際や看護師の考え方、看護の役割機能を知ることができる」「看護師へのインタビューを通して、療養環境にいる対象者の生活行動のあり方や健康に関する心情を知ることができる」に変更した。その他の目標は変更しなかった(表1)。

2) 学内実習の方法

看護の役割と連携については講義形式、病院・病棟見学と病棟看護師の看護活動については教員等が作成した動画を学内で視聴する方法とした。療養環境の対象者に関する内容は看護師へのインタビューを行う方法とした。実習後は提出物の提出を課した。なお、動画の撮影、看護師へのインタビューは札幌医科大学附属病院看護部の協力を得た(表2)。

(1) 看護の役割と連携に関する講義

2019年度と同様に、看護の役割は看護部長、連携は各々の内容に応じて医師や理学療法士、看護師による講義とした。

(2) 病院内施設の視聴

4部門と病院内施設に関する動画を講義室で視聴する方法とし、各部署の機能や構造を学生が理解できるようにした。動画撮影と編集は放射線部門のみ当該部門担当者が行い、それ以外は教員が行った。

(3) 病棟内施設と病棟看護師の看護活動の視聴

撮影協力を得た1病棟の病棟内施設と日勤帯の病棟看護師の業務に関する動画を視聴した。動画は対象者の生活の場としての病院の構造や機能、対象者と看護者の関わり、および看護の特徴を学習できる内容とした。看護師がバイタルサイン測定等の看護技術を行っている場面や対象者との会話の場面等を含めた。

(4) 看護師へのインタビュー

看護師へのインタビューは看護師の考え方や看護の役割機能、療養環境にいる対象者の健康に関する心情等について学習することを目的とした。インタビューの視点は病棟

表1 2019年度とCOVID-19感染拡大下の2020年度における基礎看護実習1の到達目標

| 2019年度の臨地実習における到達目標 | COVID-19感染拡大下の2020年度における到達目標 |
|--|--|
| 1. 病院見学を通して、病院の構造と機能を知る。 | 1. 病院見学を通して、病院の構造と機能を知ることができる。 |
| 2. 病棟見学を通して、病棟の構造と機能を知る。 | 2. 病棟見学を通して、病棟の構造と機能を知ることができる。 |
| 3. 看護師の看護活動の見学と可能な看護活動への参加を体験し、病棟における看護の役割機能を知る。 | 3. 看護師の看護活動の見学と看護師へのインタビューを通して、看護師の活動の実際や看護師の考え方、看護の役割機能を知ることができる。 |
| 4. 療養環境にいる対象者と会話の場面を通して、生活行動のあり方や健康に関する心情を知る。 | 4. 看護師へのインタビューを通して、療養環境にいる対象者の生活行動のあり方や健康に関する心情を知ることができる。 |
| 5. 体験をした内容をもとに、「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について考える。 | 5. 体験をした内容をもとに、「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について考えることができる。 |
| 6. 主体的に学習し、学生看護師として責任ある行動をとることができる。 | 6. 主体的に学習し、学生看護師として責任ある行動をとることができる。 |

表2 COVID-19感染拡大下の2020年度の基礎看護実習1のスケジュール

| 日数 | 時間帯 | 内容 | 学習形式 |
|-----|-----|--|------|
| 1日目 | 午前 | オリエンテーション | 対面講義 |
| | | 連携に関する講義（医師） ・看護師と医師の連携 | 対面講義 |
| | 午後 | 看護の役割について（看護部長） ・病院の役割および組織形態 ・専門職としての看護者の責任 | 対面講義 |
| | | 連携に関する講義（看護師） ・院内と院外の連携・調整活動の実際 | 対面講義 |
| 2日目 | 午前 | 連携に関する講義（理学療法士） ・リハビリテーションの役割と課題 | 対面講義 |
| | | 病院見学 ・制御部門 ・放射線部門 | 動画視聴 |
| | 午後 | 病院見学 ・外来部門 ・リハビリテーション部門 ・病院内の見学 | 動画視聴 |
| | | | |
| 3日目 | 午前 | 学内実習に関するオリエンテーション | 対面講義 |
| | | 病棟見学 ・病棟内施設 ・病棟看護師の看護活動の実際 | 動画視聴 |
| | 午後 | インタビューに関するグループワーク① | 対面演習 |
| | | インタビューに関するグループワーク② | 対面演習 |
| 4日目 | 午前 | 看護師へのインタビューの実施* | 対面演習 |
| | 午後 | インタビューの振り返り（グループワーク） | 対面演習 |
| 5日目 | 午前 | 実習の学びに関する発表会 | 対面演習 |
| | 午後 | 実習記録の提出 | 対面 |

*インタビューについて

- ・グループ数：8グループ
- ・1グループあたりの人数：6～7名
- ・1回のインタビュー時間：20分程度

での看護活動, 患者とのコミュニケーション, 現在の部署の業務とし, 事前に学生に提示した。

学生はグループで質問の内容と理由を事前に話し合い, インタビューの準備をした。インタビューの対象は4名の看護師に協力を依頼した。1グループあたり6～7名の学生で8グループ編成とした。インタビューをするグループは講義室でインタビューを20分行い, 他学生はその状況をオンラインで別の教室で視聴した。

Ⅲ. 学内実習の状況

学生の提出物と学内実習時の発言から, 2020年度学内実習の状況を述べる。

1. 看護の役割および連携に関する講義

看護の役割と連携に関する講義では, 医療安全マニュアルの整備やPNS等の患者の安全と安楽を守るために行われていることについて記述されていた。看護師の役割には, 多職種連携におけるチーム内の調整等があると学んだと書かれていた。それを遂行するため, 専門職として責任を持って, 倫理的な姿勢が必要であると述べている学生がいた。

2. 病院内施設の視聴

制御部門での学びとして, 中央監視設備によって病院の環境が安全で衛生的になるよう常に点検がされており, 機械や電気設備等の部門が協働していることについて述べられていた。放射線部門での学びでは, 各部署の設備, 検査, 治療, 患者の安全を守るための看護師の関わりについて記述されていた。外来部門での学びとして, 内科外来について視聴し, 外来看護師には限られた時間で状況を判断する能力が求められることが記述されていた。リハビリテーション部門での学びでは, 理学療法や作業療法, 言語聴覚療法の動画を視聴し, 多職種のチームアプローチが重要であること, 看護師に求められる役割について学んだと記述されていた。理学療法士の講義と動画で視聴した内容を関連づけることで理解が深まったと述べている学生もいた。

3. 病棟内施設と病棟看護師の看護活動の視聴

制病棟内施設の動画を視聴して病棟の構造や機能を知り, 看護活動のイメージ化が促され, 病棟看護師の業務に関する動画の視聴により1日の流れを理解できたと書かれていた。バイタルサイン測定等が実際に行われている場面より, 演習時に学んだ点を改めて安全と安楽の視点で考えたと述べている学生もいた。

対象者との関わりについて, 看護師が常に看護の視点で観察していることを学んだと記述されていた。認知機能が低下した対象者との関わりでは, 安全と安楽を保持するための個別性を考慮した対応, 対象者の気持ちに寄り添う重要性を知ることができたと述べられていた。

4. 看護師へのインタビュー

事前の話し合いで学生はインタビューの内容に, 勤務帯ごとの業務内容や優先順位の考え方, 看護の役割, および対象者との関わり方をあげていた。

提出物では, 勤務帯で業務内容と勤務体制が異なることでの留意点, 業務の優先順位の考え方等が述べられていた。看護の役割では, PNSによってペアで行動することで相互確認が徹底されて安全な看護援助が提供されていると書かれていた。安全で安楽な看護援助を提供するには, 知識と技術を確実に身につける必要があり, 今後も意欲的に学習に取り組みたいとの発言があった。また, 対象者は様々な不安を抱えながら療養生活を過ごしており, 対象者を尊敬する気持ちで関わることで信頼関係が構築されることを学んだと述べられていた。

Ⅳ. 考察

1. 病院・病棟見学

2020年度は各部署と実習病棟に関する動画を視聴した。病院内の施設, および臨床の場で展開される医療や看護における多職種連携についての記述より, 看護の役割と連携に関する講義を動画で示した病院と病棟の構造と機能の内容と関連させて学んでいた。対象者の安全・安楽の保持や他職種と看護師の協働に関する視点が述べられており, 理解を深めていたと考える。

2. 病棟看護師の看護活動の視聴

2019年度は各実習病棟で実習したが, 2020年度は病棟看護師の看護活動に関する動画を学内で視聴した。これには看護師が患者と会話をしたり, シャワー浴介助等の看護援助を行ったりしている場面を含めた。学生の記述で看護活動を行う際のイメージ化が促されたとあり, 看護活動の実際について理解を深めたと考える。松谷ら³⁾は看護実践能力を, 知識や技術を特定の状況や文脈の中で統合し, 複雑な活動で構成される全体的統合概念と定義している。学生は病棟看護師の看護活動を視聴したことで, 間接的ではあるが具体的な看護実践を知り, 学内の学習を発展させる動機づけがなされたのではないかと考える。

3. 看護師へのインタビュー

勤務帯による業務の違い, 業務の優先順位の付け方等に関する記述より, 看護師の考え方を学んだと考える。PNSでは対象者に安全と安楽な看護援助を提供する体制を, 対象者の不安等の記述より, 対象者を尊重することが信頼関係の構築につながることを学んでいた。また, インタビューにより主体的な学習の実際を学ぶ機会となった。

4. COVID-19感染拡大下での基礎看護実習1学内実習の到達目標の達成状況

学生の学習状況より、看護師は対象者の個別的な背景を考慮して看護技術を用いて安全で安楽な看護を提供していることを学んでいた。院内外における多職種連携の重要性和看護の役割について理解を深めることができた。これらより、基礎看護実習1の学内実習の到達目標は達成されたと評価できる。

基礎看護実習1の学内実習における到達目標1と2の病院と病棟の構造と機能を知ることは看護学教育モデル・コア・カリキュラム¹⁾の看護実践能力のうち、安全なケア環境の整備に対応し、到達目標の達成状況から学内実習で学習はできたと考える。到達目標3の病棟における看護の役割機能、および到達目標4の療養環境にいる対象者の心情を知ることが、看護過程に基づくケアの実践、安全なケア環境の整備、チームの一員としてのケア参画に対応し、同様に到達目標の達成状況から学内実習で学習はできたと考える。一方、学内実習では、看護師が患者の状態に合わせて援助内容を修正したり、優先順位を考えスケジュール変更を行ったりしている場面を見学することができず、臨地実習の特徴である変化への対応を必要とする学習はできなかった。

5. COVID-19 感染拡大下の2020年度の基礎看護実習1学内実習の有効であった点と課題

病院・病棟見学では、教員側が意図した動画を視聴したことで、教育側が学生に学んでほしい安全や連携といった内容を学生は理解できていたと考える。病棟看護師の個性を考慮した病棟看護師の看護活動の視聴により、看護活動の実際について学ぶことができていた。看護師へのインタビューでは、提示した視点から学生自身が知りたいことを看護師に質問することで、主体的な学習の実際を学ぶ機会となっていた。

以上より、学内実習で学生は看護活動のイメージ化が促され、看護活動の実際に関する理解を深めたと考える。このことは、今後学生が看護実践能力を育成していく上で基礎となる学習につながり、学内実習の有効な点と考えられる。

一方、学生は患者との援助関係の構築、指導看護師との関わり等を実体験を通して学ぶことはできなかった。学内実習では、臨地実習に特有の常に変化と不確実性のある多様な看護活動や、学内とは異なる緊張感を体験できないことから、この点の理解については限界があった。

V. 本報告の限界と今後の課題

本報告の限界は、学生の提出物を担当教員が評価しているが系統的な評価が含まれていない点である。今後は学生および臨床からの評価も含めて、基礎看護実習1の学習成果を系統的に検討することが課題である。

利益相反

開示すべき利益相反はない。

引用文献

- 1) 文部科学省：看護学教育モデル・コア・カリキュラム, 2018
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf, (2021-09-19)
- 2) 舟島なをみ：看護学教育における授業展開, 第2版, 東京, 医学書院, 2020, p76-77
- 3) 松谷美和子, 三浦友理子, 平林優子他：看護実践能力：概念, 構造, および評価, 聖路加看護学会誌14:18-28, 2010